

新宮山彦ぐるーぷ第1952回

## 前鬼く太古ノ辻く大日岳く関ヶ原尾根の台風被害調査と復旧

◇実施日：2017年11月12日（日） 快晴

◇参加者：川島 功、児嶋道夫、濱野兼吉、山川治雄、畑理清子、

大江加代子、生熊千満子、上村洋司・和美、竹中卓治、

梶野照雄。

11名。

当初の予定では「持経宿・平治宿への台風21・22号による被害把握と復旧の点検巡視」だったが、青木さんが11/4～11/5にゲートから歩いて巡視し、両小屋と水場に異常は無いが、林道の復旧が人力では難しいとの報告があった。

そこに大日岳山頂の大日如来座像が台座より転落していること、前鬼から太古ノ辻までの登山道が倒木で塞がれていることがネット掲載及び高槻市・菅原氏から連絡があり、急遽予定を変更し、前鬼から大日岳までの巡視となった。

午前8時に小仲坊集合との事から午前5時に家を出る。さすがにこの時間帯は、通行量が極端に少なく、午前7時半に小仲坊に到着、五鬼助さんにネットで見つけた大日岳山頂の大日如来坐像の写真を見て頂き、皆の到着を待った。

新宮6時10分発、七里御浜海岸から雲のない水平線から顔を出した日の出を見ながら、山川氏宅に立寄り、熊野市飛鳥盆地の朝霧の漂う中を走行し、前鬼林道ゲート前で合流した竹中氏を乗せ、8時前に川島車(児嶋・大江・畑林・生熊同乗)、上村車(山川・竹中氏同乗)が到着して全員が揃った。

本日の作業予定等をミーティングする。

午前8時に登り始めて10分後、早くも倒木が横たわっていた。山川さんがチェーンソーで切除、上の方でも川島氏のチェーンソーの音が聞こえて、先行メンバーも倒木処理をしていることが判った。



紅葉の不動七重の滝



小仲坊から登山開始



10分ほどで最初の倒木

まだ尾根にも出ていないのにチェーンソーの出番となり、この先が思いやられる。40分程歩いて小休止、冷え込んでいるが快晴無風の為、汗をかき薄着にする。



二本目の倒木処理



二つ岩手前で小径木処理



二つ岩で休憩

その後、二つ岩までチェーンソーで小径木1本処理した。



二つ岩を過ぎて1本目の倒木処理



最大の倒木を切除



二つ岩を越えてすぐに連続して倒木があり、最大の物は根返りして倒れた20mを超す雑木で、幹が7本に分かれた大物だった。この木が道を完全に塞ぎ、上方の根元まで高捲きする形で踏み跡が付いていた。



最大の倒木慎重に処理、

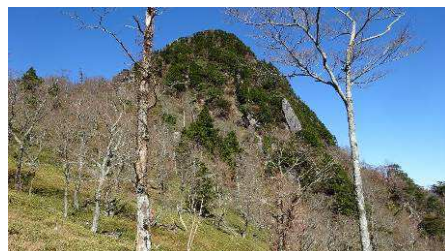
処理後の登山道確保

太古ノ辻手前で倒木処理

根元付近に70cm位の大岩が木の上に残っていて、落下する恐れがあったため、太い枝を切りテコにして、二人がかりで落とし後にチェーンソー2台で切除。この場所での切除に約30分を要した。その後、太古ノ辻までにも小さな倒木があり、切除しながら11時に太古ノ辻に到着。



太古ノ辻で小休止



青空に映える大日岳

しばらく休憩して大日岳に向かった。11時半、大日岳に到着。二つのネット写真では地面に置かれていた大日如来座像は、誰かによって台座に戻されていた。傾いていた台座も水平に近い状態になっていた、5人以上の人が作業したと思われる。

大日如来座像は、宝冠の右側が折損して、地面に小さな二つのパーツを発見、頭上に引っかかっていた10×8cmの部分と合わせて三パーツを回収した。回収した宝冠の折損部分は小仲坊で保管していただいた。

その他の損傷は右手首に2mm程の亀裂が認められた。頭髮の左側の亀裂と顔面の小さな傷は、今回の転落によるものかは不明。右腕肘の後ろに大きな亀裂があったが、錆びの状態からかなり以前からのものと思われる。光背に損傷は認められなかった。光背

は三つのパーツから成り、それぞれがビス止めされていて、中央に盧舎那仏のような小仏像があった。



宝冠の右側折損



宝冠折損パーツ



顔面の小さな傷



右手首に約2mmの亀裂



右肘部の亀裂損傷(古い)

台座は水平に近い状態に据えられていたが、前後が逆に置かれていた。台座を正しい位置にするために像を一旦地上に降ろした。

台座下の隙間のある石組みを隙間の少ない石積み土台にして、ほぼ水平にして3人で台座を回して正しい位置に置き直し、再び4・5人で持上げ台座に大日如来座像を嵌め込み安置した。



台座下の石積み積み直し 台座水平に石積み修正 据えた像をザイル固定

大日如来坐像は、像を降ろし組み直したので、坐像と台座の接合方法がよくわかった。

台座と坐像の嵌め込み部分は、径6mmくらいのビス3カ所止めてあったのだが、このビスが腐食か今回の脱落で無くなり、座像は台座の上に乗っているだけの状態だった。

そのため坐像に触るとグラつき、再度の転落を防ぐために坐像下部に8mmザイルロープで締付け両側の栓生立木に固定して、強風にしばらく耐えられる様にして作業を終えた。

大日如来坐像・台座は、背高さ約2m、重量約100kgと思われる。

児嶋さんは、既存の穴にネジを切り直し、ネジボルト締め加工出来るとのこと。又、台座下の石組は隙間も多く、セメントを流して水平に固めて恒久処置が、必要と思われるが・・・。



本日の参加者(大日岳)



昼食・児嶋カフェ開店



山頂は狭いので鞍部まで下って昼食。食後、児嶋カフェも開店し、快晴で予報よりも気温が上がって、上着を着ることなくゆつくり過ごせた。13時過ぎに下山を始める。

太古ノ辻、二つ岩で小休止後、二つ岩から関伽坂尾根経由となった。二つ岩で休憩中に合流した登山客3名が、同行させて欲しいと一緒に関伽坂尾根ルートを下山する事になった。

関伽坂尾根ルートは、昨年の12月以来なので、ほぼ一年ぶりである。雪のあった冬とは違って、取付きの下りの鎖場は、落葉で覆われ、足元不安定で一人ずつ慎重に降りた。

関伽坂峠までに尾根を妨げる倒木が数本あり2本をチェーンソーで処理した。小さな倒木や斜木は、ノコで切除しながら順調に歩くと共に児嶋氏はピンクテープ目印を所々付けて下さる。

ヒメシヤラ小径木が密生する尾根辺りに、熊の糞があった。

15時15分に関伽坂峠に到着し小休止、小仲坊へと急ぎ下山。15時45分、全員無事に小仲坊に到着。五鬼助さんに本日の経過を報告し、それぞれ帰路についた。



関伽坂尾根にも倒木



仏生嶽の東面



ヒメシヤラ小径木尾根道

### 行動タイム

小仲坊08:00→09:25(二つ岩)09:35→11:00太古ノ辻11:10→11:35  
大日岳→12:30鞍部(昼食)13:00→13:20太古ノ辻13:25→13:50  
二つ岩14:00→伽坂尾根経由→15:15関伽坂峠15:20→15:45小  
仲坊(解散)15:55。

(記：梶野・写真；川島・梶野)